

## 令和1年度 就労継続支援B型ペーパーミント事業報告書

利用者が施設の活動を通して自立した日常生活及び社会生活を営むことができるように就労の場を提供すると共に生産活動、販売の機会を広げ、能力を向上させる支援を行った。結果、利用者の知識・技術の習熟が進み、手厚く工賃を支給することができた。また利用者自身の就労に対する自信獲得や生活の質の向上に繋ぐことができた。

### 1. 事業の報告

#### (1) 就労における各作業班の報告

##### ①パン作業

- ・パンの商品開発に力を入れることで、多くの顧客から喜びの声が聞かれた。新商品は利用者にとって形成が難しく思えたが、職員の根気強い指導で技術を獲得することができた。利用者のパン作りに対する責任感や技術は明らかに向上している。結果、一日の仕事の全体的な流れまで、つかむことができるようになった。今後も引き続き確実性など技術の向上を目指す。
- ・販売員の接客マナーも指導の成果が出て、明らかに向上し、手際よく応対が出来るようになった。
- ・県の施設、高齢者の福祉施設、一般の企業等の新規販売先を得ることができた。また福祉施設での給食や保育園の誕生日会等多くの注文を受注した。工賃の支給額も大分県の平均支給額を大幅に超えている。
- ・新商品としてピザ風パン（明太子、ツナマヨ）に取り組み、購入者から好評の声をいただいた。販売先の県立高校からの依頼で部活動のイベントで使う新商品の作成にも取り組んだ。
- ・コロナウイルスの影響により販売先からの販売自粛の要請等があった。それに伴い売上の減少となった。

##### ②園芸作業

- ・漬物（ナスの辛子漬け、きゅうりのわさび漬け、酢漬け、高菜漬け）は顧客に好評で、生産数すべてを完売した。
- ・自農園でブルーベリーを収穫。収穫前半からは生果で販売し、収穫最盛期からはジャムへの加工も行った。心待ちにしている顧客から喜びの声が聴けた。
- ・施設外就労の作業としてカボスの収穫作業を行った。利用者の技術も向上しているために予定通りの日数で収穫の運びとなった。
- ・3月よりコロナウイルスの影響によるマスク不足を鑑みて、布マスクの製造・販売を開始した。売上にして5万円弱にのぼった。

##### ③室内作業

- ・ざびえる本舗、たかはし園、菊家、鶴亀フーズ、第一包装、大分ポリエチレン、箱折り、

シール貼り、菓子の袋詰め等の委託作業に取り組んだ。

- ・新規顧客としては2月より化成品商事からのシール貼りの作業を請け負うことになった。職員の指導の下、スムーズに作業をこなすことができた。納品後も問題なく、その後も継続して作業の依頼を受けている。ざびえる本舗では新規作業として新商品の箱の製作やシール貼りを請け負った。すぐに作業になれ、短期間の納期にも応えることができた。

## (2) 生活訓練

### ①文化的活動

- ・日頃の作業での疲れをいやす目的で梨狩りを計画した。梨園で収穫や試食を楽しみ、実りの秋を実感することが出来た。道中では道の駅おおのでアイスクリームなどを購入し、いつも一緒に作業をしている利用者同士で楽しむことができた。
- ・5月の県障がい者スポーツ大会、6月の大分県ゆうあいスポーツ大会に参加した。それぞれ利用者の積極的な参加が見られた。10月に予定していた大分市あおぞらフェスタについては雨天のため中止になり参加ができなかったことは残念だった。

### ②健康・衛生面について

- ・利用者の健康を管理する目的で登園時には検温を実施している。流行性の疾患の蔓延を防ぐために家庭での状態を連絡帳等の利用で把握することができた。  
うがいの励行や手洗い、水分の補給、定期的な各部屋の取手などの消毒、窓の開閉による換気等を行い暖房時には加湿器を設置し湿度の調整を行った。結果として感染症等に罹患する利用者はいなかった。
- ・昼食後には利用者の歯磨き後に口腔ケアを行った。齲歯などを早く発見でき、保護者への連絡を行った。利用者の歯磨きに対する意識の変化もあり、口腔衛生の改善につながった。
- ・年1回成人病検診センター実施の健康診断を行っている。また、40歳以上の国民健康保険加入者は、市民検診にて対応した。健診結果にもとづき、看護師からの指導を各家庭に行い、診察が必要な利用者には指導を行い、受診を促した。
- ・利用者の高齢化に伴い、昼食前に口腔機能トレーニング（嚥下体操）を取り入れている。トレーニングに取り組む事で唾液の分泌を促し、またしっかりと噛んで食事をする事ができている。口腔機能の維持・向上につながった。また外部より言語聴覚士を招聘し、発語や嚥下に課題のある利用者のケアにも取り組んだ。

## (3) 地域交流

7月の夕涼み会や12月の餅つき・クリスマス会など地区の方との交流を密にすることに心がけた。近隣には案内状を配布するなど、周知に努めた。催し物への参加は限られた方のみになっていることが現状の課題である。

ますます開かれた施設づくりに力を注ぎたい。

#### (4) 福祉サービス相談

年2回の第3者委員を招集し、定例会議とその前月に相談日を設け、利用者の困っている事や日々のお話を聞く機会を設けた。また、園生活や家庭での悩みや不満がある利用者から、その都度、支援員が相談を受け、不満や不安の解消に務めた。

#### (5) 防災計画

月1回の避難訓練では、地震発生から火災などの2次災害を想定した訓練も取り入れ、地震時は机の下への避難、防災頭巾の着用の重要性、ガラス等が割れていることがあり、怪我を防ぐ為、裸足にならないなどを促した。避難時の集合場所を統一化（園の正門前）することも定着してきている。年2回実施している、総合防災訓練では、消防署などの関係機関から、実際の訓練の様子を見てもらい、利用者が職員の指示に従い、素早く避難できている点を高く評価された。